

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	国語III
科目基礎情報					
科目番号	3002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報通信システム工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教員による独自編成教材・『国語総合』(教育出版)・『ビジュアル国語便覧』(大修館書店)				
担当教員	片山 鮎子				
到達目標					
<p>1 基礎的な日本語を創造的に運用できる能力を身につける。</p> <p>2 日本の古典文学作品についての理解を深める。</p> <p>3 社会で要求されるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>4 テーマに沿ってプレゼン企画を立て、自己の見解を他者にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>&lt;現代的文章&gt; 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。</p> <p>&lt;表現・コミュニケーション&gt; 実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。</p> <p>&lt;古典&gt; 伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できる。いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べるができる。</p> <p>【Ⅲ-A:1-1】論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。</p> <p>【Ⅲ-A:1-7】現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用語、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。</p> <p>【Ⅲ-A:2-1】代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。</p> <p>【Ⅲ-A:3-2】他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限必要な到達レベルの目安(可)	
基礎的な日本語を運用できる能力を身につける。		独創的な視点を持ち、自らの考えを正しい日本語で表現することができる。	論理的に自らの考えを、適切な日本語を選択しようとしながら表現することができる。	自らの考えを基本的な日本語を使用しながら、表現することができる。	
日本の古典作品についての理解を深める。		古典作品の文法・文学史を踏まえながら、作品世界を自分独自の感性で味わうことができる。	古典作品の文法・文学史をおおむね踏まえながら、作品世界の内容を理解することができる。	古典作品の文法・文学史について、一部理解しながら、作品世界の概要を理解できる。	
社会で要求されるコミュニケーション能力を身につける。		言語・非言語両面における社会人としてのコミュニケーション能力を、場面に応じて使いこなすことができる。	言語・非言語両面における社会人としてのコミュニケーション能力を、おおむね使いこなすことができる。	言語・非言語両面における社会人としてのコミュニケーション能力とは何か理解できる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>1 学生の主体的活動となる場面を数多く設定し、自己PRの作成・プレゼンテーション、様々な課題解決のための小論文、短時間での要約、文学作品の理解・創作、基本的な漢字能力をみる小テストなど、さまざまな言語理解活動をさせる。</p> <p>2 文学作品の理解をとともに、ゲーム・創作を通して文学作品を楽しむ態度と日本文化とを身につける。</p> <p>3 言語・非言語両面における社会人としてのコミュニケーション能力を高める。</p> <p>4 多様な文化・生活様式への想像力を持つ姿勢を育む。</p>				
授業の進め方・方法	講義と演習を併用する。				
注意点	評価は定期試験を50%、提出物を50%とする。基本的に再試験は行わない。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス/自己PR (1)	テーマに沿って自分の考えをまとめ、記述する。【Ⅲ-A:1-1】	
		2週	自己PR (2)	作成した自己PRを発表する。【Ⅲ-A:3-3】	
		3週	自己PRをする (3)	同上【Ⅲ-A:3-3】	
		4週	自己PRの評価	他者の自己PRを評価する。【Ⅲ-A:3-3】	
		5週	自己PR (4)	他者の評価をまとめる。【Ⅲ-A:3-3】	
		6週	文章作成の基礎 (1)	文章作成に必要な基礎知識を身につける。【Ⅲ-A:1-1】	
		7週	文章作成の基礎 (2)	同上【Ⅲ-A:1-1】	
		8週	文章作成の基礎 (3)	自己PRのレポートを作成する。【Ⅲ-A:3-2】	
	2ndQ	9週	韻文について (1)	漢詩について学び、理解を深める。【Ⅲ-A:2-2】	
		10週	韻文について (2)	和歌について学び、理解を深める。【Ⅲ-A:2-2】	
		11週	韻文について (3)	和歌について学び、理解を深める。【Ⅲ-A:2-3】	
		12週	百人一首を体験する	「百人一首」を体験し、身体の動きを通じて古典文化に親しむ。【Ⅲ-A:2-3】	
		13週	韻文について (4)	俳句について学び、理解を深める。【Ⅲ-A:2-3】	
		14週	韻文について (5)	その他韻文について学び、理解を深める。学生自身の手で短歌を創作する。【Ⅲ-A:2-3】	
		15週	前期の復習	前期の内容を復習する。	
		16週	前期末試験		

後期	3rdQ	1週	ビジネス文書Ⅰ	ビジネス文書の意義と主な書式について学ぶ。【Ⅲ-A:3-4】
		2週	ビジネス文書Ⅱ	企画書の立案プロセス・書式例について学ぶ。【Ⅲ-A:3-4】
		3週	企画立案Ⅰ	オリジナル企画立案に向けて、ブレインストーミング・マインドマップ等の手法を実践的に学ぶ。【Ⅲ-A:3-1】
		4週	企画立案Ⅱ	企画書のモデルケースをもとに、立案および書き方のセオリーを身につける。(グループワークを含む)【Ⅷ-B】【Ⅷ-C】
		5週	企画立案Ⅲ	企画書のまとめ方・プレゼンテーションのセオリーを身につける。(グループワークを含む)【Ⅲ-A:3-1】
		6週	企画立案Ⅳ	同上【Ⅲ-A:3-1】
		7週	プレゼンテーションⅠ	グループで立案したオリジナル企画のプレゼンテーションおよび相互評価を行う。【Ⅲ-A:3-2】
		8週	プレゼンテーションⅡ	同上【Ⅲ-A:3-2】
	4thQ	9週	プレゼンテーションⅢ	プレゼンテーションの評価内容をまとめ、レポートを作成する。【Ⅲ-A:3-2】
		10週	文章の要約(1)	文章を要約し、理解力を身につける。【Ⅲ-A:1-1】
		11週	文章の要約(2)	同上【Ⅲ-A:1-1】
		12週	文章の要約(3)	同上【Ⅲ-A:1-1】
		13週	言語表現(1)	社会において必要な言語・非言語コミュニケーションについて学ぶ。【Ⅲ-A:1-7】
		14週	言語表現(2)	同上【Ⅲ-A:1-7】
		15週	まとめ	後期の内容を復習する。
		16週	後期期末試験	

評価割合

	試験50	レポート30	小テスト10	発表等10	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0